

第39回日本精神科病院協会
精神医学会ランチョンセミナー

共催／第39回 日本精神科病院協会精神医学会
共和薬品工業株式会社

地域連携と クリニカルパス

—つながる精神科医療での実践と応用—

【講師】

ストラテジック・プロフェッショナルズ代表パートナー、日本クリニカルパス学会理事
前 名古屋大学医学部付属病院医療経営管理部 教授

立川 幸治 先生

【座長】

医療法人 社団博友会 北の峰病院
名誉院長

石澤 秀明 先生

平成23年

7月14日(木)

12:00-13:00

札幌コンベンションセンター

第5会場 (107・108会議室)

SORA

札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1

地域連携と クリニカルパス

—つながらる精神科医療での実践と応用—

分業化、標準化、効率化。今までのクリニカルパスのキーワードである。侵襲的急性期医療の世界だけを考えると当然の帰結であった。しかしすべての患者ケアは長い時間と広いエリアで様々な医療の担い手でなされる。また経済ならびに社会は医療の世界に部門や施設内での部分最適から地域や国のレベルでの全体最適を要請し始めている。そこでクリニカルパスの意義、役割自体も変わりつつある。すなわち慢性疾患の疾病管理、そこに携わる医療機関、医療専門職間の共通言語と共通目標を編み込むツールである。

患者自身の要求もそれを後押ししている。癌患者の長期管理を目的とした地域連携パスが登場したのは単なる行政的圧力だけでない。

精神疾患は長い時間経過をたどり、急性増悪や寛解の時期を重ねていく。さらに患者は施設内だけでなく地域という面でケアされる時代になった。ポイントとなるのがつながる医療の輪である。その要としてのパス活用を通し精神疾患ケアの近未来を考えたい。

立川 幸治 先生 略歴

- 1983年 東京医科歯科大学卒業。
虎ノ門病院レジデント。
- 1990年 日米医学医療交流財団フェローとして渡米。
帰国後1991年医療事業コンサルティング会社ドクターズオピニオンを起業。
- 1998年 外資系企業日本代表。
- 2000年 ITならびに医療流通分野でのベンチャーを創業。
- 2004年 名古屋大学に国立大学法人化を契機に創設された医療経営管理部教授に転じる。
- 2011年 同大専任教授を退官しビジネス界へ復帰。

現在、ストラテジックプロフェSSIONALズ代表パートナー、OPホールディングス最高経営責任者等を務める。
名城大学大学院特任教授、名古屋大学大学院非常勤講師、日本赤十字豊田看護大学大学院非常勤講師を併任。